

2016年日本地理学会春季学術大会  
都市の社会・文化地理学研究グループ研究会  
恵泉女学園大学 荒又美陽

メガイベントと都市—地理学的アプローチを考える

はじめに

- ・2020年東京オリンピック開催決定
- ・2012年ロンドン大会の巨大な跡地

1. メガイベントと都市

➤ メガイベントの定義

国際的な非政府組織（BIE、IOC等）の関与、普遍主義的な理念  
開発理由や名声という観点で代替可能なものとして扱われた経緯

→ BIEが万博として扱っているものと近代オリンピックの流れを見る

➤ 日本におけるメガイベント研究の動向

1) 各種歴史研究

科学技術史 吉田(1985)、佐野(2015)…出品物、コーディネーター、日欧関係  
建築史 三田村ほか(1999)、片木(2010)、越澤(2014)…建造物、会場計画など  
文学（思想史） 松村(1986)、鹿島茂(1992)…同時代の思想から読み解き

2) 社会学

吉見(1992, 2005) 19世紀の帝国主義、商業主義、国家の「顔」としての万博と日本  
町村(2002)など 愛知万博推進コアリション、「国家プロジェクトとして進められる国際  
博覧会というヴェールをかぶった地方イベント」

→ 万博自体のインパクトがなくなる中で、開発のために誘致

石坂・松林(2013) 長野の市民によるイベント評価とその後のネットワークを問う

3) 地理学的研究の動向

長野オリンピック(山口1997、石澤2002、鈴木2008)、愛知万博(松谷1996、伊藤2005ab、  
宇佐見2000, 2006) …環境アセスメント、開発手法批判（農転、新住など）、宿泊施設  
→ オリンピックに社会科学的研究が少ないなか、地域開発と観光という側面から役割。

ローカルなイベントとしての研究に偏り？

→ ローカル、ナショナル、グローバルレベルでの都市へのインパクト

## 2. 東京オリンピックを考えるための論点の整理

### ➤ オリンピックの包括的研究 (地理学)

J.P.オーギュスタンと P.ジョンの『オリンピズム』(2004) 理念の偏り、招致合戦問題

J.R.ゴールド・M.M.ゴールド『オリンピック都市』(2008=2011)

「レガシー」という用語に焦点を当てつつ、「持続可能性」を問う

夏季、冬季、パラリンピックのほかに芸術競技もあること(cf.長嶋 2010)

5つの要点 **finance, place promotion, security, urban regeneration, tourism**

大きな時代の流れを整理し、9つのオリンピックを分析・比較

(ベルリン 1936、メキシコ 1968、モントリオール 1976、バルセロナ 1992、シドニー 2000、アテネ 2004、北京 2008、ロンドン 2012、リオ 2016)

### ➤ メガイベントの歴史的展開と近年の傾向

表 1 19世紀から現在までのメガイベントの整理

町村(2007) 1人当たり GDP 対米国比率から開催都市の傾向を分析

Coaffee, J., *Urban Regeneration and renewal* (In. *Gold and Gold 2008=2011*) p.181

「近代オリンピック運動の初期には、利益が生まれれば物理的なインフラ整備に用いられたのに対し、近年は再生 (**regeneration**) は物理的・社会的・環境的・経済的に相互に関係した多様な問題を標的にした、全般的な介入政策と見られるようになってきている。それは、持続性や「レガシー」という考えに結び付けられた、調整された仕方で行われている。」

→ 経済大国の首都開催がいかなる社会の姿を実現しようとしているのかを捉える必要性

## 3. ロンドン・東京・パリ

### 1) ロンドン 2012

多岐にわたるレガシー・プラン (資料 1)

イーストロンドンの大規模な再開発 (←2004年ロンドンプラン)

貧困地域 (イギリスでもっとも貧しい地区のひとつ) を新しい居住地へ

民間資本による開発 (Minton 2009=2012)、市場のみで動かない部分に五輪を利用

雇用の創出と住宅の販売価格

2005年7月招致決定、翌日キングスクロス駅でのテロ事件—写真撮影の制限など

オリンピックで何を想起するか (「マンデヴィル」、『炎のランナー』)

現在の Museum of London における展示

### 2) 東京 2020

アクション&レガシープラン (資料 2)

新国立競技場の建設と都営霞ヶ丘住宅の立ち退き

湾岸の工業地域の開発—脱工業化、1940年万博とのつながり

東京開催へのその他の論点（資料3）

1964年、さらには1940年を連想することについて

国際観光都市、英語表記、「外国人にわかりやすい地図表現」など

### 3) パリ 2024?—万博とオリンピックの関係に関して

半世紀で5回の万博を開催した19世紀

1900年、1924年のオリンピック…万博の付録から冬季オリンピックの開始へ

1989年万博の開催返上…市内が会場、19世紀の参照、グラン・プロジェと脱工業化

1998サッカー・ワールドカップ…Stade、“Black, blanc, beur” (Body-Gendrot 2000)

1992年、2008年、2012年オリンピック招致失敗

…2005年から10年の間に移民・ムスリムへの態度硬化

2024年オリンピック都市に立候補…セキュリティ、既存競技施設の再利用など

おわりに

- ・脱工業化時代の「再生」事業としてのオリンピック
- ・物理的な変化だけではなく、ナショナル、グローバルレベルのイデオロギーの発動

### ➤ 参考文献

- ・メガイベント関連

石澤 孝「長野市における冬季五輪開催と農地転用」『季刊地理学』54(3), 129-138, 2002

伊藤達雄「いま名古屋が熱い(1)愛知万博の開幕」『地理』50(5), 64-69, 2005a

伊藤達雄「いま名古屋が熱い(2)愛知万博—環境との共生を求めた会場づくり」『地理』50(6), 100-106, 2005b

石坂友司・松林秀樹『<オリンピックの遺産>の社会学—長野オリンピックとその後の十年』青弓社 2013

宇佐見大司「地域—日本から世界から(69)愛知万博はどうなってきたか、そしてどうなるか」『歴史地理教育』617, 80-85, 6, 2000

宇佐見大司「地域—日本から世界から(129)愛知万博が残したもの」『歴史地理教育』695, 80-85, 2006

内海和雄「オリンピックをめぐる平和と和解」足羽與志子・濱谷正晴・吉田裕編著『平和と和解の思想をたずねて』大月書店 2010、193-217

鹿島茂『「サン・シモンの鉄の夢」絶景、パリ万国博覧会』河出書房新社 1992、小学館(文庫)2000

片木篤『オリンピック・シティ東京 1940・1964』河出書房新社（河出ブックス）2010

越澤明『東京都市計画の遺産—防災・復興・オリンピック』筑摩書房（新書）2014

佐野真由子編『万国博覧会と人間の歴史』思文閣出版 2015

鈴木 富之「冬季オリンピック以降の長野市中心部における宿泊産業の再編成」『人文地理学会大会 研究発表要旨』210-210, 2008

田淵晋也「フローベールとゴンクール兄弟の見た万国博覧会—19世紀後半期におけるヨーロッパ文明の一

- 様相』『大阪府立大学紀要 人文社会科学』39、1991、31-52
- 長嶋圭哉「オリンピック<芸術競技>と日本の美術界—ロサンゼルス、ベルリン、東京」五十嵐利治編『「帝国」と美術 1930年代日本の対外美術戦略』国書刊行会 2010、211-257
- 夫馬信一『幻の東京五輪・万博 1940』原書房 2016
- 町村敬志「博覧会の曲がり角—愛知万博：迷走と模索の15年」一橋大学町村ゼミナール『愛知万博 海図のない航海—11のコンパス』一橋大学大学院社会学研究科社会学共同研究室 2002
- 町村敬志「メガ・イベントと都市空間—第二ラウンドの「東京オリンピック」の歴史的意味を考える」『スポーツ社会学』15、3-16、2007
- 町村敬志・吉見俊哉編著『市民参加型社会とは—愛知万博計画過程と公共圏の再創造』有斐閣 2005
- 松谷 務「愛岐丘陵の自然と開発：二〇〇五年万博は何のために?」『地理教育』25、68-76、1996
- 松村昌家『水晶宮物語—ロンドン万国博覧会 1851』リプロポート 1986、筑摩書房(学芸文庫)2000
- 松村嘉久「物語としての都市と農村の終焉:北京市の「民工」集住地区について」『人文地理学会大会 研究発表要旨』31-31、2003
- 松村嘉久「北京オリンピックと都市空間の変容--インナーシティとスラムのクリアランス」『地理』53(6)、40-51、2008
- 三田村哲哉・小林克弘・中原まり「パリにおける博覧会の変遷に関する研究—1855-1937年を対象とした配置計画の分析を中心として」『日本建築学会計画系論文集』519、333-339、1999
- 山口通之「長野冬季オリンピックと自然保護」『歴史地理教育』558、36-39、1997
- 吉田光邦編『図説万国博覧会史 1851-1942』思文閣 1985
- 吉見俊哉『博覧会の政治学—まなざしの近代』中央公論新社(新書) 1992
- 吉見俊哉『万博幻想—戦後政治の呪縛』筑摩書房(新書) 2005
- ラージ、デイヴィッド・クレイ、高儀進訳『ベルリン・オリンピック 1936—ナチの競技』白水社 2008 (= Large, D-C., *Nazi Games: The Olympics of 1936*, W.W. Norton & Company, 2007)
- ラビン、バーバラ、杉田厚子・松井久美枝訳、「審美的イデオロギーと都市の設計」千田稔訳編『地図のかなたに 論集 景観の思想』地人書房 1981 (=Rubin, B. *Aesthetic Ideology and Urban Design, Annals of the American Association of Geographers*, 69-3, 339-361, 1979)
- Augustin, J-P. et P. Gillon, *L'Olympisme: Bilan et enjeux géopolitiques*, Armand Colin, 2004
- Gold, J.R. and M.M. Gold, *Olympic Cities. City Agendas, Planning, and the World's Games, 1896-2016*, Routledge, 2011 (First edition published 2009)
- Roche, M., *Mega-Events Modernity. Olympics and Expos in the Growth of Global Culture*, Routledge, 2000
- ・ロンドン
- 近畿都市学会編『都市構造と都市政策』古今書院 2014
- 根田克彦「イーストロンドンにおける都市再生手段としてのオリンピック」『歴史と地理』688、54-60、2015
- リヴィングストン、ケン、ロンドンプラン研究会訳『ロンドンプラン—グレーター・ロンドンの空間開発

戦略』都市出版 2005

Campkin, B., *Remaking London. Decline and Regeneration in Urban Culture*, I.B.Tauris, 2013

Minton, A., *Ground Control. Fear and Happiness in the Twenty-First-Century City*, Penguin Books, 2012 (First Published 2009)

Poynter, G. and I. MacRury, *Olympic Cities: 2012 and the Remaking of London*, Ashgate, 2009

・東京

近畿都市学会編『都市構造と都市政策』古今書院 2014

小泉諒、西山弘泰、久保倫子、九木元美琴、川口太郎「東京都心湾岸部における住宅取得の新たな展開—江東区豊洲地区の超高層マンションを事例として」『地理学評論』84-6, 592-609, 2011

日野正輝・香川貴志編『変わりゆく日本の大都市圏—ポスト成長社会における都市のかたち』ナカニシヤ出版 2015

増山一成「幻の博覧都市計画—東京月島・日本万国博覧会」佐野真由子編『万国博覧会と人間の歴史』思文閣出版 2015、267—295

町村敬志『「世界都市」東京の構造転換—都市リストラクチャリングの社会学』東京大学出版会 1994

・パリ

Atelier Parisien d'Urbanisme, Renouveau urbain et Jeux olympiques, *Paris Projet*, 36-37, 2005

Body-Gendrot, S., *The Social Control of Cities ?*, Blackwell, 2000

*Le Grand Pari(s). Consultation internationale sur l'avenir de la métropole parisienne*, Le Moniteur Architecture, 2009

*Livre Blanc. Projets pour l'exposition universelle de 1989 à Paris*, Flammarion, 1985

*Paris olympiques: Douze projets d'architecture et d'urbanisme pour les Jeux de 2008*, Le Moniteur, 2001

➤ 映像作品・舞台作品

リーフェンシュタール、レニ『オリンピア』（民族の祭典、美の祭典）（1938）

市川昆『東京オリンピック』（1965）

ハドソン、ヒュー『炎のランナー』（Chariots of Fire）（1981）

スピルバーグ、スティーヴン『ミュンヘン』（Munich）（2005）

野田秀樹、NODA・MAP『エッグ』（2012年初演、2015年再演）（2016年1月23日に再演版がNHKで放送）（台本は野田秀樹「エッグ」『新潮』109(10)、47-111、2012、および野田秀樹『エッグ／MIWA—21世紀から20世紀を覗く戯曲集』新潮社 2015）

テレビ朝日『オリンピックの身代金』2013年12月放送（原作 奥田英朗『オリンピックの身代金』角川書店）

NHK BS1スペシャル『幻の祝祭～1940東京オリンピック物語』（2016年1月4日放送）

表1 メガイベントの歴史的展開

年	都市	特記事項	
1851	ロンドン	第1回万博、水晶宮	国民 国家・ 帝国 主義
1855	パリ	第2回万博、アルマ橋	
1862	ロンドン	万博、初めて日本の物産を展示	
1867	パリ	万博、「万物」の展示、幕府、薩摩藩の参加	
1878	パリ	万博、ジャポニスム	
1889	パリ	万博、エッフェル塔	
1893	シカゴ	万博、ホワイトシティとミッドウェイ・プレイザンス	
1896	アテネ	第1回オリンピック	
1900	パリ	万博とオリンピックの同時開催、グラン・パレなど	
1908	ロンドン	オリンピック、マラソン距離が42.195キロに	
1924	パリ	オリンピック、『炎のランナー』、シャモニーで第1回冬季	
1936	ベルリン	オリンピック、ナチ政権、聖火リレー、『オリンピア』	
1937	パリ	万博、シャイヨー宮	
1940	東京	オリンピック、万博一双方とも中止、札幌冬季五輪も中止	
1944	ロンドン	オリンピック、中止	
1947	パリ	都市計画博覧会	
1948	ロンドン	オリンピック、初の障害者の試合を並行開催	復興 ・ 復帰
1964	東京	オリンピック、新幹線、首都高速、東京・代々木体育館	
1970	大阪	万博、「人類の進歩と調和」、太陽の塔	
1972	札幌	冬季オリンピック	冷戦 など
1972	ミュンヘン	オリンピック、イスラエル選手団への襲撃事件	
1975	沖縄	海洋博覧会	
1980	モスクワ	オリンピック、西側諸国のボイコット	
1984	ロサンゼルス	オリンピック、東側諸国のボイコット、企業による商業化	新興 国・ 工業 化
1985	つくば	科学技術博覧会	
1988	ソウル	オリンピック (2012 麗水万博、2018 平昌冬季オリンピック)	
1998	長野	冬季オリンピック	
2005	愛知	万博、環境、「自然の叡智」	
2008	北京	オリンピック (2022 冬季オリンピックも北京で開催予定)	
2010	上海	万博	
2012	ロンドン	オリンピック	
2020	東京	オリンピック	
2024	パリ?	オリンピック	

資料1 ロンドンオリンピック レガシー

1. スポーツと健康な生活
2. イーストロンドンの再生
3. 経済成長
4. コミュニティの統合
5. パラリンピックからの遺産

出典：Inspired by 2012: The legacy from the London 2012 Olympic and Paralympic Games. A joint UK Government and Mayor of London report. July 2013

([https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment\\_data/file/224148/2901179\\_OlympicLegacy\\_acc.pdf](https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/224148/2901179_OlympicLegacy_acc.pdf))

資料2 東京 アクション&レガシープラン

1. スポーツ・健康（アスリート委員会・委員長 高橋尚子）
2. 街づくり・持続可能性（委員長 東大総長・三菱総研理事長 小宮山宏）
3. 文化・教育（委員長 東京藝大大学長 宮田亮平）
4. 経済・テクノロジー（委員長 政策研究大学院教授 大田弘子）
5. 復興・オールジャパン・世界への発信  
（メディア委員会・委員長 フジメディアホールディングス会長 日枝久）

出典：東京オリンピック・パラリンピック組織委員会 HP（2016年3月7日閲覧）

資料3 東京オリンピック開催批判 論点

- 「特集 返上有理！2020東京オリンピック徹底批判」『インパクション』194、2014
- ・東京中心的発想（福岡も手を挙げていた）
  - ・石原、安部といった明らかな差別主義者によって招聘・組織されるオリンピック
  - ・IOC総会での「アンダー・コントロール」発言
  - ・IOC役員 の 墮落、資質の低さ。賄賂問題、財政のみで開催の是非を判断する。
  - ・被災地の復興への悪影響（財政、資材、労働力の不足）
  - ・1964の成功の強調と負の記憶の隠ぺい（五輪後の不景気、生活インフラの遅れなど）
  - ・天皇家の政治利用（1964で昭和天皇の復帰、IOC総会への高円宮妃・三笠宮皇女の参加）
  - ・国民に政治問題から目をそらせつつ（ex.日米安保、沖縄ヘリ墜落）、統合を促す
  - ・スポーツ・エリート の 非人道的な育成方法と商業化の問題
  - ・野宿者、都営霞ヶ丘アパートの立ち退き
- 村嶋雄人 「ふたつの「利権」の正体—東京五輪の長い影（特集 理念なき東京オリンピック）」『世界』878、54-60、2016
- ・森の代々木利権と都の湾岸利権の組み合わせによる招致